1 あらゆる産業の元気づくり

農産品などの海外輸出を拡大

経済発展著しい東アジア地域をターゲットに、PRパンフレットの作成や関係団体と連携した商談会の開催などにより、ナシやミカン、イチゴなどの輸出を拡大しています。さらに、牛乳のテスト輸出も始まりました。

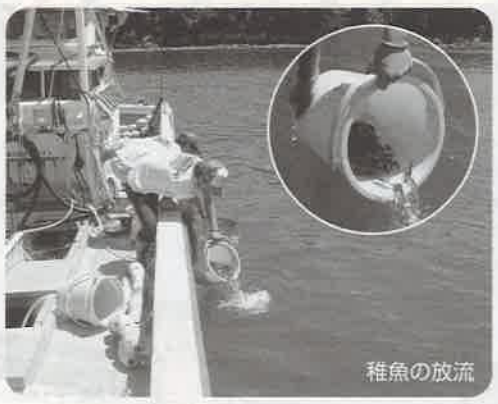
【大消費地・海外に向けた農林水産品の流通・販売の促進】

森林の育成に不可欠な間伐（かんばつ）を推進

健全で元気な森を育てるために必要な間伐。利用価値の高い木の育成だけでなく、水源のかん養や地球温暖化防止など、森の多面的機能の発揮に貢献する間伐を、各地域で積極的に進めています。

【間伐等による元気な森づくり】

稚魚の放流や漁場の環境改善などによる、豊かな海づくり


稚魚の放流

さかながとれる豊かな海づくりに向け、漁場の整備に努めるとともに、マダイ、ヒラメなどの稚魚の放流や資源管理型の漁業を進めています。また、アサリを食べるトビエイの駆除や海底の清掃で、資源の回復と漁場環境の改善を図っています。

【さかながとれる豊かな海づくり】

バイオテクノロジーを利用した新製品の開発

大学などとの連携により新しい事業を目指す企業が入居する「くまもと大学連携インキュベータ」。この施設に支援人材を配置して、入居企業に対する支援を行っています。これにより、バイオテクノロジーを利用した新製品が数多く開発されています。

【バイオ関連産業の振興】

新くまもと大型観光キャンペーン展開中

九州新幹線全線開業を視野に入れ、新しく磨き上げた観光資源を含む県内各地の観光の情報を発信するため、新幹線沿線の大都市圏を中心に「この旅あっぱれ！くまもと観光キャンペーン」を展開しています。

【「我がまちの宝」輝く観光くまもと】

コールセンターが中心市街地に進出

中心市街地活性化基本計画の認定を受けた熊本市と、日本トータルテレマーケティング（株）が、県の立ち会いのもと、九月に進出協定を締結。既に稼働している（株）テレマーケティングジャパンやソフトバンクBB（株）、（株）ミスミなどのコールセンター（お客様問い合わせセンター）とともに、雇用創出による中心市街地の活性化が期待されます。

【中心市街地等活性化対策】

急ピッチで進む、認定農業者や地域営農組織の育成

米・麦・大豆を対象とした「品目横断的経営安定対策」などに対応して、力強い農業の担い手づくりを進めるため、認定農業者の育成や地域営農組織の設立などを支援。担い手の育成や安定的な農地の利用体制づくりが急ピッチで進んでいます。

【経営力豊かな農業者づくり】

「くまもとキャリア教育応援団」始動

子どもや若者の勤労観・職業観をはぐくむため、職場見学や職場体験などに協力する事業所などを「くまもとキャリア教育応援団」として募集・登録を始めました。十一月からは、県ホームページで協力事業所などの情報提供を始めるなど、若者層の雇用対策を進めています。

【若年層の雇用対策】

2 暮らしの原点「安全・安心なまちづくり」

農薬の適正使用の指導により、食の安全安心を確保

生産者や関係団体に対する農薬の適正使用の周知を徹底するとともに、農薬販売店の立入検査などを行うことにより、農産物の安全安心の確保を図っています。

【安全安心な食の生産流通システム】

肥後っ子を守ろう 伸ばそう 育てよう

少年の非行防止を図るため、「ストップ・ザ・万引き作戦」を展開し、万引きに関するアンケート調査や非行防止教室を開催するとともに、薬物乱用防止活動に取り組んでいます。

【街頭犯罪・侵入犯罪対策の強化】

総合的な地域医療体制の推進

地域の医師不足問題に対応するため、「医療対策協議会」の設置や女性医師の就業支援など、総合的な取り組みを開始。また、死亡原因の一位である「がん」対策として、「熊本県がん対策推進計画」を策定するなど、医療機関と連携して、医療水準向上や予防、早期発見などの取り組みを進めています。

【安全・安心な地域医療体制の推進】

3 「豊かな人間性や実力」を伸ばす教育・文化

幼・保、小連携を中学校へ拡大

基本的な生活習慣や「人権を大切にする心」「勤労観・職業観」「ふるさと感」を就学前から系統的にはぐくむため、三月に「幼・保、小連携実践事例集」を作成。連携した取り組みで、働くことに興味を持ち、当番などに進んで取り組むようになったという報告もあり、今年度はさらに中学校まで連携を拡大し、幼稚園や保育所、小・中学校の連携を進めています。

【就学前及び小学校低学年における教育の充実】

幼稚園・高等学校における特別支援教育の推進

教育上特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒が在籍するすべての学校において、特別支援教育を実施しています。今年度は、小・中学校に加えて、幼稚園や高等学校においても特別支援教育を進めるため、特別支援教育コーディネーター養成研修の対象を公立幼稚園と県立高等学校にも拡大し、すべての県立高等学校が参加しました。

【障害のある児童生徒への支援】

農業・農村への理解を進める交流活動が活発化

農作業体験学習や農村バスツアーの実施、農家民宿の整備、各種情報の発信など、農業・農村への理解を進める交流活動が各地で活発化し、生産者と消費者の共生関係づくりや、農村地域の活性化が図られています。

【食・農・地域文化を活かした交流、振興】

4 支えあい、誰もが出番の福祉社会

広がる「地域の縁がわ」づくり

地域の触れ合いの中、子どもやお年寄り、障害のある方、子育て中の方など、誰もがいつでも集い、支え合う福祉のまちづくりの拠点「地域の縁がわ」づくりを進めています。今年は、十七団体を支援し、取り組みを広げています。

【地域支え合いネットワークづくり】

「くまもと食育イメージキャラクター」を決定し、食育活動を推進

六月の「食育月間」に合わせて、中心市街地での街頭啓発や、県の食育イメージキャラクターの募集を行いました。八月には「第一回食育推進くまもと県民大会」を開催し、イメージキャラクターの紹介や入選者の表彰をはじめ、基調講演や活動事例の紹介、体験教室、パネル展示などを行い、県民運動として食育の推進が図られるよう取り組んでいます。

イメージキャラクター

【食育の推進】